

冬季の豚舎の温湿度管理のポイント

冬季は呼吸器疾患が多発する時期です。予防対策として豚舎内の温湿度管理が大変重要です。

【温度の管理】1月になると、子豚舎ではブルーダーなどの保温が必要となります。常時、点火した状態では、夜間でも20℃は維持できるようですが、すきま風は大敵です。風速1m/秒の風は体感温度を4℃下げますので、換気の際にも直接豚に風をあてない工夫が必要です。写真のように豚房に屋根を設置すると2～3℃、温度を高く保つことができます。また、コンパネで豚房の壁面を覆ったり、写真の屋根とビニールシートを組み合わせると子豚の快適な場所をつくってあげることも有効です。

【換気の管理】保温のために換気が不足すると、アンモニア濃度が上昇し始めます。アンモニアは、床面に近い方が高い傾向があるので豚の高さまでしゃがんでみてください。適性範囲は10ppm以下で、目に刺激を感じる濃度は15ppmとされていますので、そのような時は換気が必要です。



【湿度の管理】; 適性湿度は60～80%ですが、ある強制換気豚舎では、1月には20～40%台まで低下していました。冬季の保温対策は子豚の健康管理上大変重要な要素です。